

海上での竜巻等突風による事故に注意して下さい

～「気象情報」・「雷注意報」を活用し、竜巻等突風を避けましょう～

天候の急変による事故事例

発生日時	発生場所	概要
2015年 9月1日 03:00 04:00	長崎県 対馬市沖	漁船5隻が対馬東方沖合で操業していたところ、 天候が急変 したことから、帰港するために漁具等を揚収中、又は帰港する途中、浸水転覆したもの。死亡5名 長崎地方気象台： 大雨と落雷及び 突風に関する長崎県気象情報 第3号(8月31日11:24発表) 対馬市に「 竜巻 」を明記した 雷注意報 (8月30日21:50から継続発表)
2011年 8月21日 06:50	山口県 下関市沖	船長ほか1名が乗り組み、操業目的で出港し漁場向け航行中、 天候が急変 したことから、蓋井島に避難するため南進中、突風に伴う波が前後左右から押し寄せ、左舷側から傾いて浸水転覆したもの。死亡1名、負傷1名 下関地方気象台： 大雨と落雷及び 突風に関する山口県気象情報 第1号(8月20日17:00発表) 下関市に「 竜巻 」を明記した 雷注意報 (8月20日23:10発表)



出港前や航行中の情報入手が重要！！

- ※出港前に確実に気象情報・雷注意報を確認し、荒天が予想される時は出港を中止する勇気を持ちましょう。
- ※航行中も常に情報入手を心がけましょう。
- ※天候が急変してから帰港しても間に合いません。



©JCGF

竜巻とは？



- 竜巻は、発達した積乱雲に伴って発生する激しい渦巻きです。多くの場合、ろうと状や柱状の雲が見えます。
- 台風、寒冷前線、低気圧などにより、大気の状態が不安定になる際に発生することがあります。
- 竜巻は陸上でも海上でも発生します。陸上で年間約25個の発生が確認されています。(9月が最も多い)
- 短時間で狭い範囲に集中して甚大な被害をもたらします。被害は、長さ数km、幅数十～数百mの狭い範囲に集中します。
- 移動スピードが非常に速い場合があります。過去に発生した竜巻の中には、時速約90km(秒速25m)で移動したものもあります。

以下のような状況になると、**竜巻等突風が発生する可能性**があります。

- 真っ黒い雲**が近づき、周囲が**急に暗く**なる。
- 雷鳴**が聞こえたり、**雷光**が見えたりする。
- ヒヤッとした**冷たい風**が吹き出す。
- 大粒の雨**や「**ひょう**」が降り出す。

段階的に発表される情報を活用し、早めの判断を心がけましょう

情報発表のタイミング

半日～1日前

「気象情報」発表

- 「竜巻など激しい突風のおそれ」と注意を呼びかけています。

数時間前

「雷注意報」発表

- 落雷、ひょう等とともに、「竜巻」と明記し注意を呼びかけています。

0～1時間前

「竜巻注意情報」発表

- 今、まさに竜巻の発生しやすい気象状況になっていることをお知らせします。

※「竜巻注意情報」は、「竜巻」だけでなく、発達した積乱雲に伴って発生する激しい突風（ダウンバースト・ガストフロント）も対象としています。

※「竜巻注意情報」等が発表されていなくても、竜巻等突風が発生することがあります。竜巻等突風発生兆しの兆しに気づいたら、自ら行動を取ってください！

竜巻発生

早めの情報入手を心がけ、以後の航海計画・出港予定を見直しましょう

雷注意報発表時は竜巻等突風発生にも注意が必要です。出港前であれば出港の見合わせや、航海中であれば早めの帰港を心がけましょう

波や風の急変に注意するとともに、発達した積乱雲に近づかないようにしましょう。

■竜巻等突風が発生する可能性が高い領域を確認するために・・・

「竜巻発生確度ナウキャスト」(詳細なエリアを10分毎に情報提供)

- 激しい突風が発生する可能性が高い領域を2段階の発生確度で表します。



竜巻発生確度ナウキャスト

※「気象情報」「雷注意報」「竜巻注意情報」は海岸線からおおむね20海里までが対象です。各情報の発表区域の沿岸域においてもこれらの情報に注意してください。

船舶への情報配信

※システムによっては、配信されない情報があります。

気象庁

- 気象特別警報、警報、注意報
竜巻注意情報、府県気象情報、天気予報
- 気象レーダー画像、雷ナウキャスト
竜巻発生確度ナウキャスト
- 全般海上警報、予報
- 地方海上警報、予報
- 地方海上分布予報
- 気象・波浪等の実況図・予想図

海上保安庁

- ナブテックス放送
- 無線電話
- 沿岸域情報提供システム (MICS)

漁業用海岸局

- 漁業無線通報
- NHK漁業気象通報 (NHKラジオ第2で放送)
- セーフティネット (衛星(インマルサット)経由で放送)
- 気象無線模写通報 (JMH) (天気図の無線ファクシミリ放送)
- インターネット・テレビ・ラジオ

船舶

～自己救命策 3つの基本～

海に落ちても沈まない

1 ライフジャケットの着用



水中でも大丈夫(防水バックの使用)

2 携帯電話の携帯



海のものも・・・

3 118番の活用



海の安全に関する情報

MICS

検索



スマホ版



モバイル版